

東北海区沿岸水温予報(2004年)

海域	経過 (10~1月)	現況(1月下旬~2月上旬)	見通し (2~4月)	見通しの背景	特異現象 (漁海況)
三陸北部 (青森県太平洋沿岸; 青森水試発表)	定地水温 1 1月: やや高め 1 2月: やや高め 1 1月の定線観測結果 0m: かなり高め 50m: かなり高め 100m: かなり高め 津軽暖流の張り出しは平年並み 1 1月の水塊深度は、平年並み	定地水温 2月: やや高め	津軽暖流域の水温は平年並みとなる。 津軽暖流の東方への張り出しは平年並み。	1 2月の対馬暖流の流幅は平年並みに推移した。勢力としては平年並みからやや弱め。 2月の対馬暖流の流幅は狭めに推移した。 勢力としてはやや弱め。	エチゼンクラゲの大量来遊が1 1月末現在でも継続している。
三陸中部 (岩手県沿岸; 岩手水七発表)	10月 表面: 平年並 100m: 県南部の距岸20海里以内でやや低めの他は平年並~やや高め 11月 表面: 平年並 100m: 平年並~やや低め 12月 表面: 平年並 100m: 平年並~やや高め 1月 表面: 距岸40~50海里でやや低めの他は平年並 100m: 距岸30~50海里でやや低め~低めの他は平年並	NOAA 画像 沿岸20海里以内は9℃台。沖合20~50海里付近で親潮第一分枝の南下が見られる。	沿岸は平年並で推移する。 沖合は距岸30~40海里で平年並み~やや低めで推移する。	沿岸は200m中層水温でも津軽暖流の影響が見られるため、急激な降温は考えにくい。 親潮第一分枝が沖合から流入しており、オホーツク海の流氷が今後太平洋側へ流入する可能性があることから、沖合は低め基調である可能性が高いと判断した。	1月に実施した調査船のトロール調査でエチゼンクラゲが入網した。 イサダ漁の解禁は、エチゼンクラゲの影響を考慮して例年よりも遅い3月1日となった。
三陸南部 (宮城県沿岸; 宮城水七発表)	10月は表面では概ね平年並、100m深では北部海域で平年並、中・南部海域で平年よりやや低め~極めて低め。 11~12月は、表面では概ね平年並、100m深では南部海域を中心に平年よりやや低め~極めて低め。1月上旬は海洋観測できず、不明。	中部沖合海域から沿岸に向かって親潮系冷水が波及し、表面ではこの海域を中心に平年より低め~極めて低め。100m深では同海域を中心に平年並~極めて低め。	表面、100m深ともに、東経142°以西の沿岸海域では平年よりやや低め、以東の海域では平年より低め~極めて低めで推移。	親潮第一分枝の南下が1月下旬から早まり、冷水の影響を継続して受けている。また、黒潮系暖水の勢力は弱く、今後、急激に強まるとは考えられない。主成分スコア自己回帰モデル、偏差持続モデルを併用して予測水温を算出したところ、沿岸海域は平年よりやや低め、沖合海域は平年より極めて低めと算出された。	エチゼンクラゲの来遊が続き、仙台湾内でも確認された。仙台湾人工礁周辺に死骸が多数確認されたとの情報があった。
常磐北部 (福島県沿岸; 福島水試発表)	10月: 親潮系冷水が漸進的に南下し、低め~極めて低め。黒潮系暖水の波及はみられず。 11月: 前月みられた極めて低めの海域は縮小したものの、依然として低めで推移。親潮系冷水が県中北部沖合から波及し、本県沿岸に冷水域が形成された。 12月: 全域で低め~極めて低め。親潮系冷水は県中北部沖合にみられ、沖合からの冷水波及の傾向は前月から引き続いていてる。 1月: 親潮系水、黒潮系水とも勢力は弱く、極めて単調な水温分布となったが、低め基調は継続し、やや低め~低め。	(2月上旬)親潮系水、黒潮系水とも勢力が弱い状態が継続したが、県南部沖にT100で4℃台の冷水域がみられた。50海里以内の沿岸域は、概ねやや低め~平年並みとなった。	50海里以内の沿岸は、「やや低め~平年並み」で推移する。	本県沿岸に親潮系冷水が差し込む時期があるが、親潮系冷水は平年並みの勢力で南下すると考えられるため、その影響は弱い。黒潮系暖水の波及は現状並みに弱く、低め基調を解消する見込みは薄い。また、自己回帰モデルによる予測結果では、低め基調の平年並みになった。	10月中旬以降、エチゼンクラゲが来遊し、底曳網、さし網、定地網に入網。1月以降、まき網にエチゼンクラゲが入網した。
常磐南部 ~鹿島灘 (茨城県沿岸; 茨城水試発表)	1 2月~1月: 親潮系冷水の影響が残ったが、親潮の南下経路が沖合寄りとなったため、沿岸への大きな冷水の差し込みは少なく、冬季の鉛直混合が進んだ。表面水温は「低い」~「やや低い」で、下層水温も「低い」~「平年並」、となった。鹿島灘で弱い暖水舌が形成され、この部分では「平年並」~「やや高い」となった。	2月: 黒潮は、犬吠埼沖を東方に流れ、鹿島灘への大規模な暖水の波及はみられない。親潮系冷水は、ほぼ142°30'Eの沖合から、鹿島灘に入り、沿岸部を北上している。このため、北部では「低い」~「やや低い」となり、黒潮の流路が南偏した鹿島灘では「低い」~「非常に低い」となっている。現在この南偏は解消されている。	親潮系冷水は徐々に沿岸に近づき、常磐南部は本格的に親潮系冷水の影響が及ぶ。水温は沖合を中心に「低い」~「平年並」となる。鹿島灘沿岸は、南下を受け、「低い」~「平年並」となる。但し黒潮が犬吠埼で接岸傾向を示したときには鹿島灘では弱い暖水舌が断続的に形成され、「平年並」~「やや高い」となる。	親潮系冷水の勢力は、平年並だが、津軽暖流と岩手沖の暖水塊の影響が消えたため、沿岸部へ冷水が波及する。黒潮の流路は、当面N型基調が続くため、常磐鹿島灘海域への大規模な暖水の波及は起こりにくいが、沿岸部で小規模な北への流れが起こり、かつ犬吠埼で黒潮が接岸したとき小規模な暖水舌が形成される。	エチゼンクラゲの南下が認められ、鉾子近辺で、まき網に数トンから数10t混獲された(1月) 南下が遅れていたカタクチイワシは1月に鹿島灘~鉾子沖に来遊し漁場が形成された。

各階級の水温平年偏差の範囲

階級区分(出現率)	三陸北部	三陸中部		三陸南部	常磐北部	常磐南部～鹿島灘
		距岸10海里内	距岸10～70海里			
極めて高い(2.5%)	+2.4℃～	+4.0℃～	+6.0℃～	+2.4℃～	+4.0℃～	+4.0℃～
高い (7.5%)	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	4.0～+5.9℃	+1.6～+2.3℃	+2.5～+3.9℃	+2.5～+3.9℃
やや高い (20%)	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	1.5～+3.9℃	+0.7～+1.5℃	+1.0～+2.4℃	+1.0～+2.4℃
平年並み (40%)	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	1.4～-1.4℃	+0.6～-0.6℃	+0.9～-0.9℃	+0.9～-0.9℃
やや低い (20%)	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	1.5～-3.9℃	-0.7～-1.5℃	-1.0～-2.4℃	-1.0～-2.4℃
低い (7.5%)	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	4.0～-5.9℃	-1.6～-2.3℃	-2.5～-3.9℃	-2.5～-3.9℃
極めて低い(2.5%)	-2.4℃～	-4.0℃～	-6.0℃～	-2.4℃～	-4.0℃～	-4.0℃～